

平成19年度大学教育改革支援プログラムの申請・採択状況

申請区分 《補助金基準額又は委託費, 補助期間》		採択結果	採択率	取組名称	取組部局	取組担当者
大学院教育改革支援プログラム《5000万円, 3年間》	医療系	○	35.5%	ユニット教育による国際保健実践の人材育成	医歯薬学総合研究科	土居弘幸 教授
		○		医療系大学院高度臨床専門医養成コース	医歯薬学総合研究科	窪木拓男 教授
特色ある大学教育プログラム《1600万円, 3年間》		○	15.9%	医学における知の創生現場実体験プログラム	医学部医学科	二宮善文 教授
現代的教育ニーズ取組支援プログラム《1600～2400万円, 2～3年間》	持続可能な社会につながる環境教育の推進	○	19.8%	晴れの国より巣立つ水環境スペシャリスト	環境理工学部	沖 陽子 学部長
専門職大学院等教育推進プログラム《2000万円, 2年間》	法科大学院における教育方法・内容の開発充実	○	41.6%	医療・福祉分野での地域連携法曹教育の確立	法務研究科	松村和徳 研究科長
	大学等における教員養成教育の充実	○	30.0%	真に課題解決能力を育てるカリキュラム開発	教育学研究科	高橋香代 研究科長
大学教育の国際化推進プログラム	海外先進研究実践支援《1人950万円, 本年度》	○ (14人)				
地域医療等社会的ニーズに対応した質の高い医療人養成推進プログラム《2250万円, 3年間》	女性医師・看護師の臨床現場定着及び復帰支援	○	22.2%	女性を生かすキャリア支援計画	附属病院	片岡仁美 助教
がんプロフェッショナル養成プラン《1億円, 5年間》		○	90.0%	中国・四国広域がんプロ養成プログラム	医歯薬学総合研究科	田中紀章 研究科長

医学における知の創生現場実体験プログラム

— 指導的医療人育成のための医学研究インターンシップ —

岡山大学の教育理念：

創造する知性、高度専門性の追求、
国際性の獲得、個の確立



岡山大学医学部の教育理念：

医療の中核を担う指導的立場の医療人育成



取組担当者：医歯薬学総合研究科 教授 二宮善文

取組の概要

医学部医学科における知の創生プロジェクトのひとつとして、平成13年から『医学研究インターンシップ』を実施して7年目を迎えます。3年次生が3か月間、学外(海外・国内)を含めた研究室で、アクティブに行われている医学研究を実体験することで、研究者マインドに裏付けられた個の表現能力と自己決定能力を持ったきめ細かな人材を育成します。また、多様な体験を他者と共有化できるよう促し、チーム医療における指導的立場の医療人の育成を目指します。

指導的立場の医療人とは

特色GP

チーム医療



チーム医療で
リーダーシップを
発揮することができる
医療人

医学研究インターンシップの概要

特色GP

入学時説明会
英語力強化
TOEFL準備



人材育成協力
研究内容打合せ



岡山大学の各研究室
(学外派遣の窓口)

海外の研究室
国内の学外研究室

研究説明会(7ヶ月前)
情報収集
マッチング(6ヶ月前)
派遣準備
実験トレーニング
研究計画プレゼン(2ヶ月前)
配属(3年次9~11月)
成績評価

* 個の表現
* 自己決定能
* 国際性
* 体験の共有化

情報収集
研究内容打合せ
派遣準備
研究計画
派遣(3年次9~11月)
成績評価



学生



報告会
報告書
アンケート

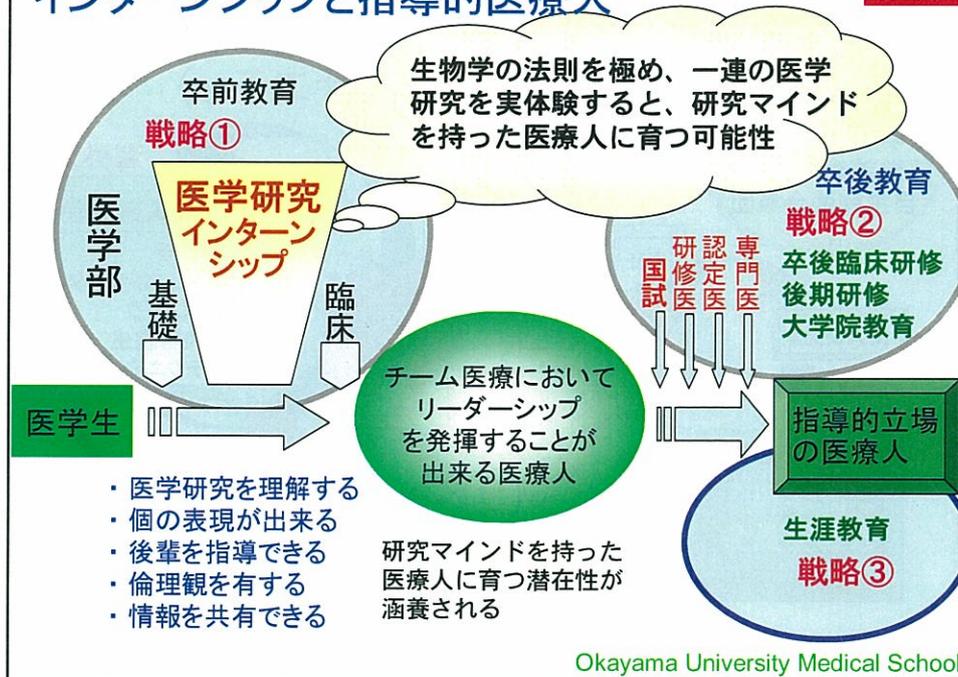


Okayama University Medical School

医学研究インターンシップ(教室配属) 2001～2007

実施年度	学内			国内派遣				海外派遣				配属数計
	研究室	受入枠	配属数	窓口研究室	施設数	受入枠	派遣数	窓口研究室	施設数	受入枠	派遣数	
2001			71				11		16	24	14	96
2002	46	120	69	9	14	20	12	17	28	38	13	94
2003	46	124	72	8	13	20	8	18	32	48	17	97
2004	44	119	64	7	16	24	12	16	32	43	16	92
2005	44	126	75	9	19	28	6	13	24	30	13	94
2006	46	125	65	10	17	37	10	15	26	33	16	91
2007	46	129	67	11	20	40	11	19	35	42	23	101
平均			69				10				16	95

インターンシップと指導的医療人

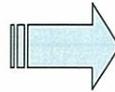


医学研究インターンシップがもたらすパラダイムシフト

特色GP

学生サイドのパラダイムシフト

1. 学生自らの意思で派遣先を選択
2. 明確な「個」の表現
(自分は何になりたいか?)
3. 情報の収集と取捨選択
4. 自己決定による自己責任
5. リスクマネジメント(特に海外派遣)



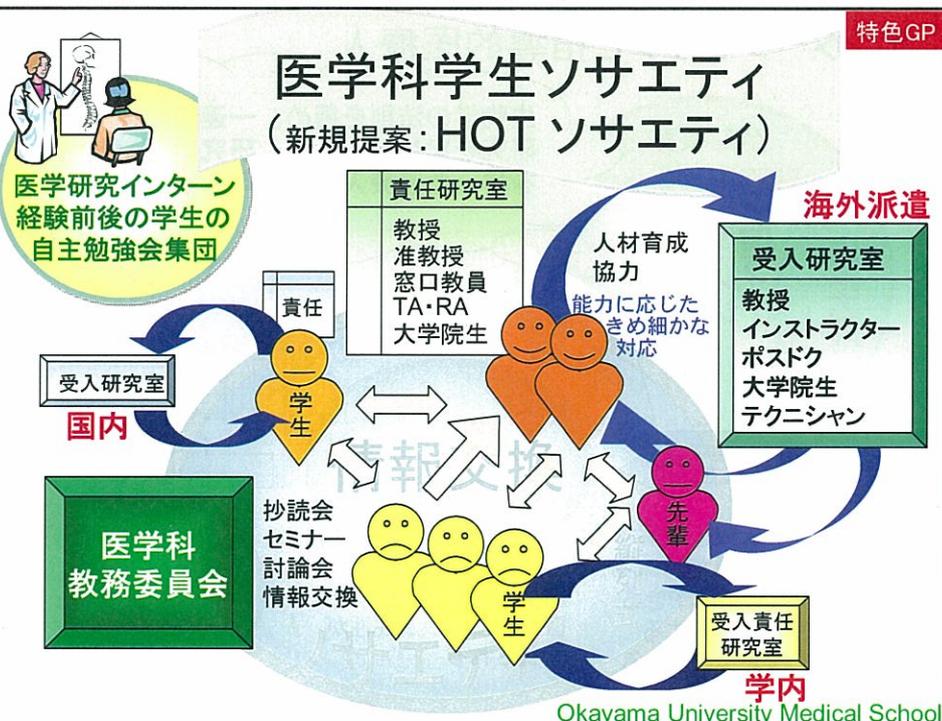
- ・ 仮想を脱し現実体験
 - ・ 現実から理念を検証
 - ・ 個の重視と知の創成
- (指導的立場の医療人育成のための最初の一步)

教員サイドのパラダイムシフト

1. 学生に選ばれるようなプログラム・配属先の提供
2. 魅力的でなければ人は来ない
3. 学生はクライアントである
4. 自分たちの生き残りをかけた取組である
5. 教育能力は高く評価される



Okayama University Medical School



平成 19 年度「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」
現代 GP「持続可能な社会につながる環境教育の推進」に採択される!!

岡山大学 環境理工学部
農学部

1. テーマ:晴れの国より築立つ水環境スペシャリスト

～地域資源「児島湖」をモデルに持続性の高い環境社会の構築を追究
する実践型環境教育プログラム～

2. 取組の概要:

晴れの国、岡山は都市と農村地域が混在し、湖沼や溜池等の閉鎖水域の環境問題がいまだ未解決の地域である。さらに、瀬戸内海の水位上昇、ゲリラ的な降雨等から今後の温暖化に伴う水環境変化の把握と予測が必要とされている地域でもある。

一方、指定湖沼である児島湖は、関係機関と県民等の協働下に、水質改善と豊かな水産資源の育成、かつ県民が訪れ・遊び・学ぶ水資源として活用する長期ビジョンの策定が進行している。本取組は、このような地域性に基ついた素材をモデルに、自然環境の機能を理解し、国際的感覚も身につけた地球レベルで温暖化に対処できる水環境スペシャリストを輩出することを目的として実践型環境教育を行うものである。児島湖をフィールド実習現場に活用し、生態系の概念や水環境の質や量のシミュレーションを学内施設で会得させると共に、ESDや環境NPO組織との地域連携並びに国際交流締結校との協力体制も取り込む。

3. 本取組が採択された理由:

本取組は、雨量の少ない岡山地方の農業用水確保のために昭和 34 年に完成した児島湖という人造湖を対象地として実施されるものである。対象地は水質汚濁の激しい閉鎖系水域であり、学内施設によりモニタリング、水質浄化実験、ビオトープ造成などエコアツプや環境改善に向けた各種チャレンジを系統的に実践し、そのプロセスの一切に、教員、専門家、学生、海外の学生などを深く関わらせ「水スペシャリスト」を養成しようというものであり、その成果としての技術や人材が国内外に展開されれば大きな社会貢献となると考えられる。

本取組は、その目標の設定、フィールドの選定、プログラム、効果、参加学生に付加しようとしている能力などが的確かつ妥当であるといえる。特に、現代社会の切実な課題に体験的に取り組みつつ自らの環境教育を全うするプログラムの系統的構成は、他大学にも十分なモデルとなり評価できる。

実施にあたっては、水質浄化技術、エコアツプ技法等、岡山大学独自の研究を深化させることや、その技術や教育システムをできるだけ海外へ移転することに力を尽くすことが期待される。

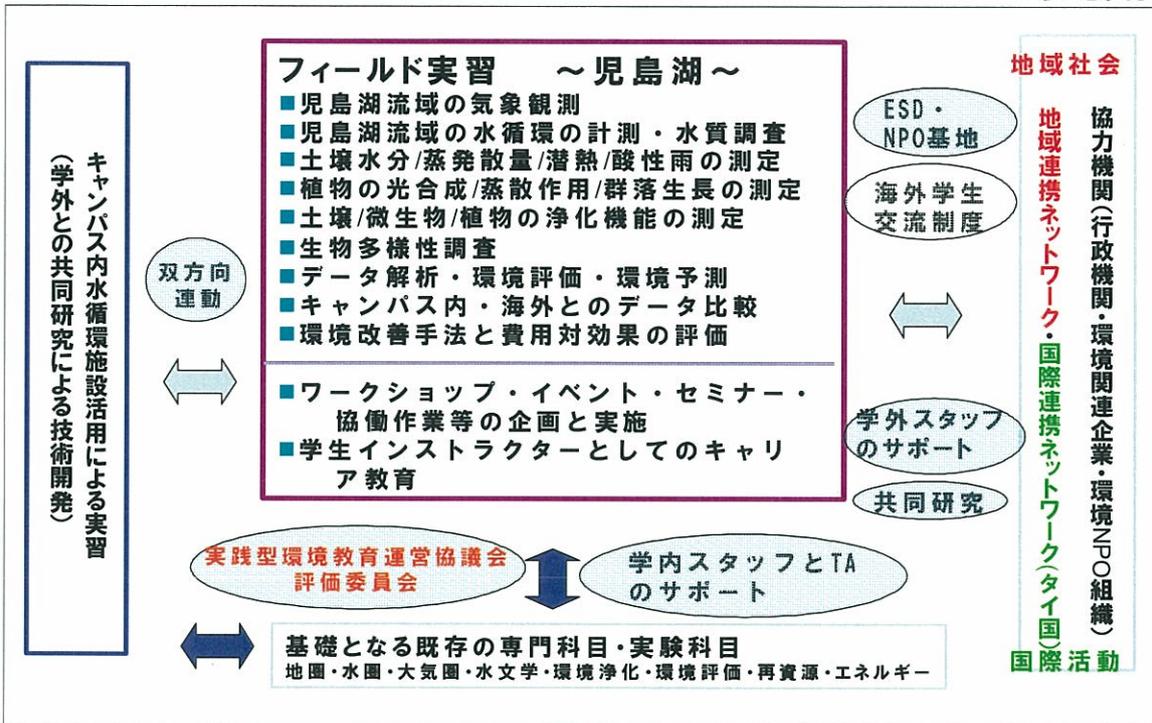


図1 取組の概要

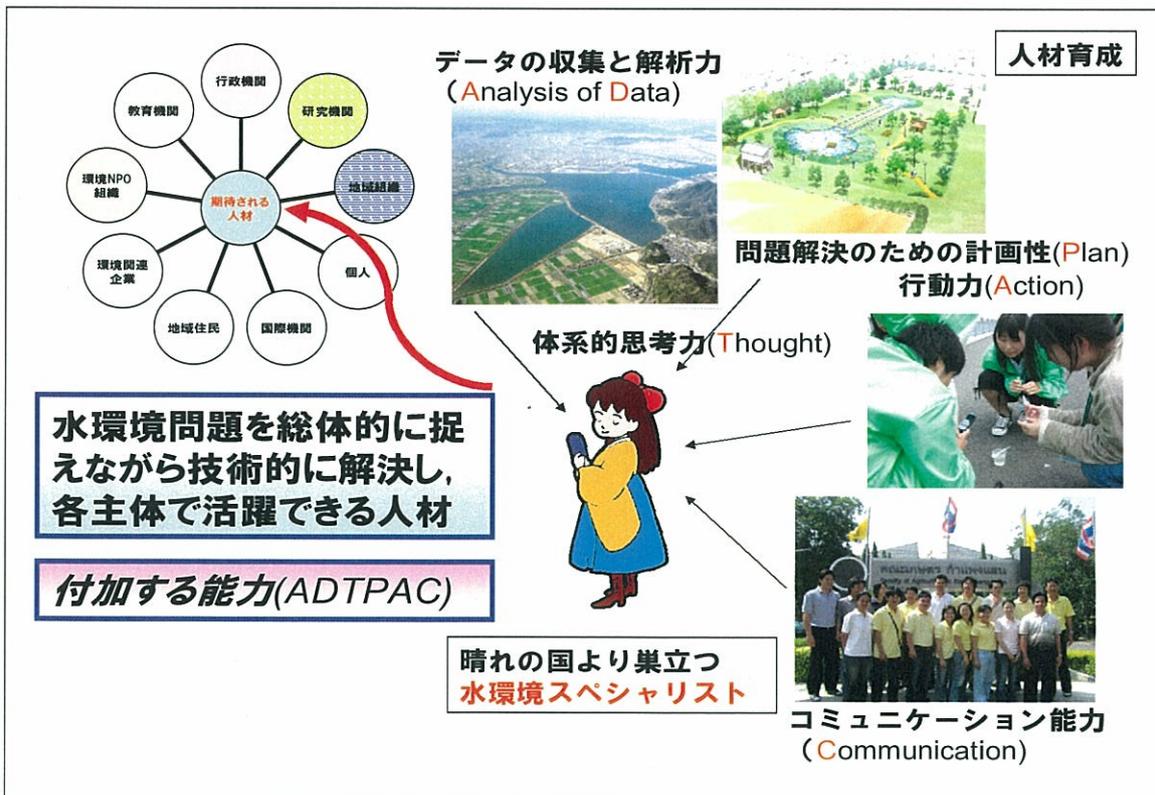


図2 どんな人材を育成するのか？

医療人GP: 女性を生かすキャリア 支援プログラム

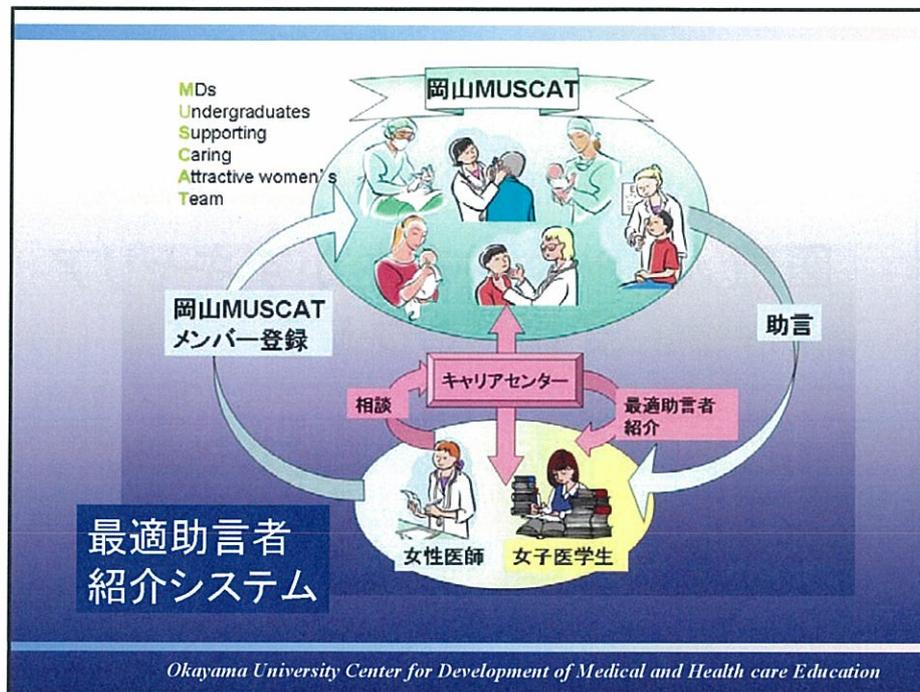
岡山大学病院 病院長 森田 潔
岡山大学医療教育統合開発センター
片岡 仁美

Okayama University Center for Development of Medical and Health care Education

女性を生かすキャリア支援計画

- A 臨床現場定着: 最適助言者紹介システム**
(Best advisor matching system)
- ・同じ経験を乗り越えた・立場が理解できる先輩医師による女性医師・学生のサポートネットワーク構築
- B 復職支援: 多彩な復職支援コース**
シミュレーターを用いた短期集中実践からワークシェア、スキルアップまで

Okayama University Center for Development of Medical and Health care Education



復職支援コース

- 短期コース: 救急・急変時シミュレーション
臨床技能速習コース(挿管、CVC)
麻酔科コース
小児科コース
- 長期コース: 内科系
麻酔科系
小児科系
産婦人科系
- スキルアップ: 内科
感染症専門医、糖尿病専門医



○高機能患者シミュレータによって患者さんの緊急的危機状態を再現し、その処置やチーム医療を訓練することが可能。

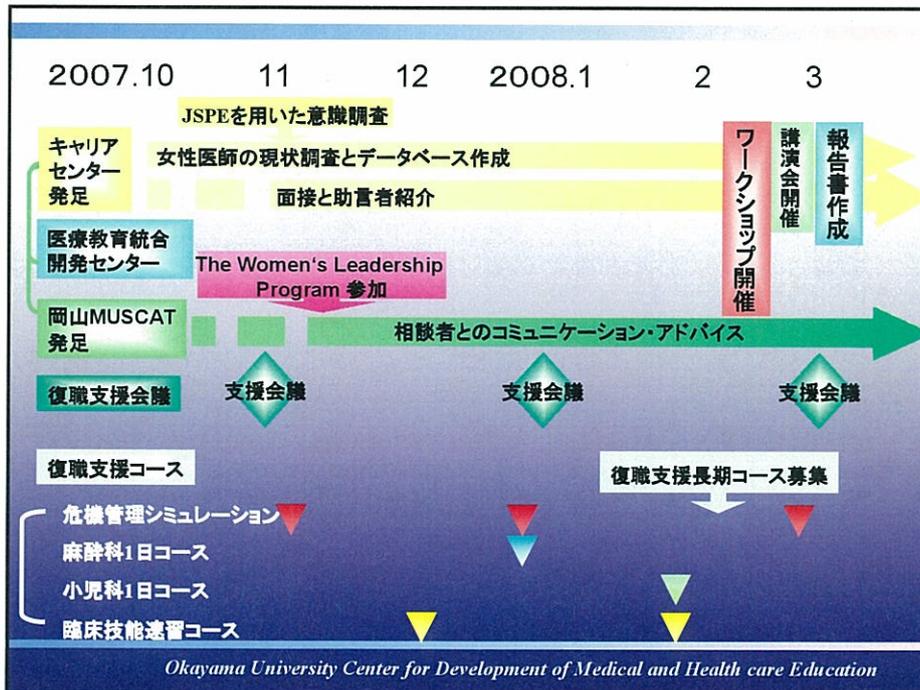
○使用する高機能患者シミュレータは、既に、アメリカ、イギリス、ドイツで医療教育や看護教育で高い実績を積んでいる。

○全身管理で重要な呼吸と循環に関して、恒常性を保つように心拍、血圧、呼吸など自動的に変化する。また、薬剤投与などの処置にコンピュータが反応を作りだしてくれるので処理に対する成否も臨床に則した状態で確認できる。

高機能シミュレータ添付文書より抜粋



Okayama University Center for Development of Medical and Health care Education



大学名	岡山大学
テーマ番号	1
テーマ名	女性医師・看護師の臨床現場定着及び復帰支援
取組名	女性を生かすキャリア支援計画
取組担当者	片岡 仁美(医療教育統合開発センター・助教)
(取組の概要)	<p>女性医師の臨床現場定着支援としてA最適助言者紹介システムを実行する。女性医師の就労状況等の情報を収集し、同時に若手医師・学生の相談窓口となるキャリアセンターを設立する。そこで、双方の情報をもとに相談者の需要に合った先輩医師を紹介し、経験者が後進を支える屋根瓦式サポートシステムを構築する。少数派である女性医師が連携し支え合うことによって現場定着を支援する。女性医師の復帰支援として内科・麻酔科・小児科・産婦人科を中心にしたB家庭と両立可能な復職支援コースを設ける。1日集中コースでは高機能シミュレータを用いた危機管理シミュレーション、麻酔技能等のトレーニングによって確実な現場復帰の準備を行う。更に、ワークシェアリングを含む柔軟な復職コースと休職中のスキルアップコースを充実させる。女性医師一人一人の力量を生かす本取組は、女性医師の活躍の場を拓げ、日本の医療、地域医療に大きく貢献するものである。</p>
(選定理由)	<p>学生、臨床研修医への情報提供システムの充実、およびシミュレーションコースから実践コースへの段階的復職支援については、有効性が高く評価できる。大学組織をあげての取組であり、学外組織との連携を含めて実施体制がよく整備されており実現性も高いと考えられる。評価の面では、教育指導に尽力した女性医師や、女性医師の復職に貢献した職員に対する表彰制度など独創的な試みも計画されており、取組へのモチベーションを高める手段として、実効性が大いに期待される。</p> <p>なお、本取組で計画されている3人をひとつの単位としたワークシェアリングに関しては、この単位内での3人が診療行為に関してどのように責任を担うか明確にすることが望ましい。また、復職支援会議の評価における役割が単なるデータ分析に留まっていることや、外部評価委員による客観的評価の確立など、評価体制には一層の工夫が期待される。</p>